

# 第 65 年度（平成 30 年度）事業報告

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

大阪府中央区道修町 3 丁目 1 番 8 号

公益財団法人 篷 庵 社

## 第 65 年度（平成 30 年度）事業報告

（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

### I. 事業の概要

本財団は、薬学等の進歩発展に資するため必要な研究を行うものに対し、研究の助成並びに研究費の援助を行い、もって薬学の発展に寄与することを目的として、主要事業およびこれに付帯する事業として以下の活動を実施した。

### II. 事業の内容

#### 1. 研究助成金の交付

平成 30 年度の研究助成金として、研究助成（全国対象 19 件 950 万円）、および特別研究助成（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県対象 4 件 1,000 万円）、計 23 件 1,950 万円を交付した。

1) 研究助成（50 万円/件・年）：

4 年目：5 件、 3 年目：5 件、 2 年目：5 件、 新規：4 件

計 19 件 計 950 万円

2) 特別研究助成

（大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県対象、250 万円/件・年）：

2 年目：2 件、 新規：2 件

計 4 件 計 1,000 万円

総計 23 件 計 1,950 万円 を交付した

各助成金の交付先は【別紙 1】の通り。

#### 2. 平成 31 年度助成事業対象者の募集および審査・選考

1) 平成 31 年度特別研究助成

（1）募集テーマ等の決定

平成 30 年 5 月 22 日の第 2 回選考委員会・企画会議にて、平成 31 年度特別研究助成の募集テーマの選考および募集要項等の審議を行い、募集テーマを「創薬を加速する独創的な分子の創製」に決定した。また、募集方法については、募集要項を大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県、和歌山県下の大学等研究機関へ郵送および篷庵社ホームページへの掲載により公示すること、また、募集期間を平成 30 年 9 月 1 日から 10 月 31 日とすることを決定した。これらについて平成 30 年 5 月 25 日に選考委員長から理事長へ答申し、同年 6 月 15 日開催の理事会にて承認可決した。

（2）募集および審査選考

平成 30 年 9 月 1 日から 10 月 31 日までの募集期間に 14 件の応募があった。これらについて同年 11 月 6 日に選考委員長から各委員に第一次審査として書面審査を依頼し、平成 31 年 2 月 5 日開催の

第3回選考委員会にて書面審査の結果を基に審議し、平成31年度助成者の選考等を行い、2名を助成者候補として決定した。結果について、平成31年2月12日に選考委員長から理事長へ答申し、平成31年3月13日開催の理事会にて承認可決した。

## 2) 平成31年度研究助成

### (1) 募集および第一次審査

平成30年4月2日理事長より9名の選出委員に平成31年度研究助成の候補者の推薦を依頼し、大阪市立大学、大阪大学、福井大学、東京大学、日本医科大学、京都大学等、全国から9名の候補者が選出された。平成30年5月22日の第2回選考委員会・企画会議にてこれらの候補者の第一次申請書の審査を研究業績および当財団の目的に適う人物であるか等以下のチェックポイントの観点から審議を行った。

- ・優秀な素質を有するが、財源不足等のために研究の継続が困難である研究者
- ・他からの助成を受けにくい薬学的な基礎研究を行なっている研究者
- ・特に若手の独立前後で将来有望な研究者

審議の結果、5名を第二次審査の候補者として選定した。

以上の結果について、平成30年5月25日に選考委員長から理事長へ答申し、同年6月15日開催の理事会にて承認可決した。これら5名について同年8月9日に理事長より各選出委員に第二次申請書の作成を依頼した。

### (2) 第二次審査及び選考

第二次申請書の5名について平成31年2月5日開催の第3回選考委員会にて審議し、この5名を平成31年度研究助成の被助成者候補とすることを決定した。以上の結果について、平成31年2月12日に選考委員長から理事長へ答申した。

平成31年3月13日開催の理事会にて、各候補者の選出委員より研究概要及びチェックシート【別紙2】の内容、また当財団の目的に合った研究者であること等詳細に説明し質疑応答を行ったのち、理事会にて慎重に審議してこれら5名について平成31年度研究助成対象者として承認可決した。

## 3. 研究成果報告【別紙3】

第37回研究助成発表会を平成30年7月25日、塩野義製薬株式会社医薬研究センター（大阪府豊中市二葉町3丁目1番1号）において開催した。

## III. 財団運営の概況

### 1. 理事会の決議事項

(1) 書面開催：平成 30 年 5 月 21 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：定時評議員会招集の件

原案通り承認可決した。

議題 2：第 64 年度（平成 29 年度）事業報告の件

第 64 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）事業報告書について原案通り承認可決した。

議題 3：第 64 年度（平成 29 年度）決算の件

第 64 年度（平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日）決算について原案通り承認可決した。

(2) 平成 30 年 6 月 15 日

議題 1：第 64 年度（平成 29 年度）定期提出書類の件

原案通り承認可決した。

議題 2：平成 31 年度特別研究助成募集テーマ決定の件

原案通り、平成 31 年度特別研究助成の募集テーマを「創薬を加速する独創的な分子の創製」とすること等、承認可決した。

議題 3：平成 31 年度研究助成第一次審査の件

平成 30 年 5 月 22 日開催の選考委員会・企画会議の決議通り、研究助成 5 名を原案通り承認可決した。

報告事項 1：理事長は平成 30 年度 1 度目の業務執行状況報告を行なった。

(3) 書面開催：平成 30 年 12 月 27 日（理事会決議があったものとみなされた日）

議題 1：評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定の件

原案通り承認可決した。

(4) 平成 31 年 3 月 13 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：第 66 年度（平成 31 年度）事業計画承認の件

第 66 年度（平成 31 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 23 件とすること及び平成 31 年 7 月 16 日に第 38 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 2：第 66 年度（平成 31 年度）収支予算承認の件

第 66 年度（平成 31 年度）収支予算および資金調達及び設備投資の見込みについて原案通り承認可決した。

議題 3：平成 31 年度特別研究助成 受領者決定の件

平成 31 年 2 月 5 日開催の選考委員会の決議通り、平成 31 年度新規助成者について特別研究助成 2 名を原案通り承認可決した。

議題 4：平成 31 年度研究助成 受領者決定の件

平成 31 年 2 月 5 日開催の選考委員会の決議通り、研究助成 5 名についても慎重審議の上、原案通り承認可決した。

議題 5：選考委員交代の件

原案通り承認可決した。

議題 6：規程等改定の件

「助成金交付規程」の改定及び、「研究助成候補者選出に関する規程」の廃止を原案通り承認可決した。

議題 7：研究助成について

今後の研究助成の在り方について、議論を行い、篷庵社の特色を残した研究助成を引き続き検討していくこととなった。

報告事項：平成 30 年 11 月 9 日に行われた内閣府の立ち入り検査について報告を行った。

報告事項：理事長は平成 30 年度 2 度目の業務執行状況報告を行なった。

## 2. 評議員会の決議事項

(1)平成 30 年 6 月 15 日定時評議員会（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選任の件

互選により選任した。

議題 2：議事録署名人選任の件

互選により 2 名を選任した。

議題 3：第 64 年度（平成 29 年度）事業報告の件

第 64 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）事業報告書について、原案通り承認可決した。

議題 4：第 64 年度（平成 29 年度）決算の件

第 64 年度（平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで）収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表並びに財産目録について原案通り承認可決した。

(2)平成 31 年 3 月 13 日（ヒルトン大阪（大阪市北区梅田 1 丁目 8 番 8 号）において開催）

議題 1：議長選任の件

互選により選任した。

議題 2：議事録署名人選任の件

互選により 2 名を選任した。

議題 3：第 66 年度（平成 31 年度）事業計画承認の件

第 66 年度（平成 31 年度）事業計画として研究助成金の交付件数を 23 件とすること及び平成 31 年 7 月 16 日に第 38 回研究助成発表会を開催することを原案通り承認可決した。

議題 4：第 66 年度（平成 31 年度）収支予算承認の件

第 66 年度（平成 31 年度）収支予算および資金調達及び設備投資の見込みについて原案通り承認可決した。

議題 5：研究助成について

今後の研究助成の在り方について、議論を行い、篷庵社の特色を残した研究助成を理事会にて引き続き検討していくこととなった。

報告事項 1：平成 31 年度特別研究助成・研究助成 受領者決定の件

報告事項 2：選考委員交代の件

報告事項 3：規程等改定の件

報告事項 4：内閣府立ち入り検査報告の件

報告事項 5：理事長の執務執行報告

### 3. 報告事項

(1) 平成 30 年 4 月 20 日

大阪市長宛に平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日までの「法人市民税減免申請書」を提出した。

(2) 平成 30 年 5 月 10 日

大阪市長より平成 30 年 5 月 2 日付「法人市民税減免通知書」を受領した。

(3) 平成 30 年 6 月 22 日

行政庁（内閣府）へ第 64 年度（平成 29 年度）事業報告書および監査報告書を提出した。

(5) 平成 30 年 11 月 9 日

行政庁（内閣府）の立入検査が実施された。

(4) 平成 31 年 3 月 26 日

行政庁（内閣府）へ平成 31 年度事業計画書および収支予算書等の定期提出書類を提出した。

以上

## 平成30年度研究助成金交付先一覧表

◆ (1件50万円×19件=計950万円)

助成	所属(申請時)	研究者	研究テーマ
4年目	富山大学大学院医学薬学研究部(薬学)	矢倉 隆之	グリーンケミストリーを指向した新規触媒の開発と応用
4年目	京都薬科大学 生薬学分野	中村 誠宏	メディシナルフラワーを素材とした生体機能性成分の探索
4年目	東京薬科大学 薬学部	矢内 光	強酸性炭素酸とその共役塩基に着目した新規触媒の開発
4年目	首都大学東京 都市教養学部 理工学系生命科学コース	安藤 香奈絵	神経細胞内ミトコンドリアの局在制御とその破綻による神経変性のメカニズム
4年目	滋賀医科大学 薬理学	今村 武史	糖尿病病態因子による幹細胞障害の同定と治療法の試み
3年目	金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬理学研究室	金田 勝幸	ストレスによる薬物依存症再燃メカニズムの解明
3年目	慶應義塾大学薬学部	大江 知之	肝障害を有する医薬品の代謝活性化機構の解明とそれを基盤にした低毒性医薬品の創製
3年目	静岡県立大学食品栄養科学部	増田 修一	ブドウ球菌毒素が誘導するスーパー抗原活性に対する植物由来成分および生薬による制御機構の網羅的解析
3年目	香川大学医学部薬理学	西山 成	生活習慣病に対する新しい診断治療法の開発
3年目	埼玉大学大学院理工学研究科	松岡 浩司	超高感度蛍光共鳴エネルギー移動による定量的バイオセンシングを可能とする新しい糖鎖高分子の創出
2年目	名城大学薬学部	北垣 伸治	シクロファン系の面不斉を利用した新規触媒の開発
2年目	大阪大学大学院工学研究科	鳶巣 守	生理活性分子の直接変換を指向した不活性結合の触媒的変換法の開発
2年目	帝京大学薬学部	高橋 秀依	軸不斉を活かした医薬品の分子設計・高活性化化合物の創製
2年目	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所	岡 正啓	細胞核輸送ネットワークと高次生命機能
2年目	近畿大学薬学部	田邊 元三	サラシノールをシードとする高活性スルホニウム塩型食後過血糖改善薬の合成と活性評価
新規	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	井上 剛	電気生理技術を用いた難治性神経疾患の創薬標的分子の同定
新規	同志社女子大学薬学部	前川 京子	メタボローム解析による多発性骨髄腫の治療効果・有害事象発現を予測するバイオマーカーの探索研究
新規	京都薬科大学 病態薬科学系 臨床薬理学分野	鳥羽 裕恵	慢性腎臓病増悪因子としての細胞外マトリックスの役割
新規	慶應義塾大学薬学部	登美 斉俊	胎盤関門透過の種差を生み出す機能分子の同定とその機能調節機構の解明

◆ 特別研究助成 (1件250万円×4件=計1,000万円)

助成	所属(申請時)	研究者名	研究テーマ
2年目 第1位	京都大学大学院 薬学研究科 薬品有機製造学分野	大野 浩章	低分子・中分子創薬を加速する革新的骨格構築法の開発と応用
2年目 第2位	大阪大学大学院薬学研究科 天然物化学分野	古徳 直之	統合的戦略に基づく新規PPI阻害剤の創製
新規 第1位	大阪大学大学院医学系研究科 神経遺伝子学	宮崎 雄	神経変性疾患のRAN病態に基づく新規治療標的の探索
新規 第2位	滋賀医科大学 神経難病研究センター	森 雅樹	小児脳難病の病態解析によって発見された若年脳遺伝子を用いた遺伝子治療の実現

以上

## 公益財団法人 蓬庵社 XXX 年度研究助成申請書作成チェックシート

## 選出条件【必須】

満たされているかご確認ください。

● シオノギ製品を用いた臨床研究を含まない研究であること	<input type="checkbox"/>
● 候補者の年齢は満 55 歳以下であること	<input type="checkbox"/>

## 選出条件

以下について、いずれかの内容が記載されているかご確認ください。

※いずれかの項目に該当するものが一つでもあれば、対応する(1)～(3)のチェック欄にチェックを入れてください

(1) 優秀な素質を有するが、財源不足のため研究の継続が困難である研究者		<input type="checkbox"/>
1	候補者の学歴及び職歴が助成対象として相応しいか。	
2	最近 5 年間の発表論文リストの内容が助成対象として相応しいか。	
3	本研究を実施するために使用する研究施設・設備等、現在の研究環境の状況に不足が生じているか。	
(2) 他からの助成が受けにくい薬学等の基礎研究を行っている研究者		<input type="checkbox"/>
1	本研究は独立したテーマであり、助成の必要性・妥当性に問題ないか。	
2	本研究の全体構想及び研究目的について、特に次の点について焦点を絞り具体的かつ明確に記述されているか。 ①研究の学術的背景と現在の状況および、今後期待される成果 ②研究期間内に何をどこまで明らかにするのか	
(3) 特に若手の独立前後で将来有望な研究者		<input type="checkbox"/>
1	候補者の年齢が特に若手の満 45 歳以下である。	
2	選出委員からみた候補者の研究遂行能力の高さ、研究分野で十分大きな役割を果たすと期待する理由の記述があるか。	
(4) その他 上記以外で当財団の目的に適った研究者・テーマである場合は、理由をお書きください		

推薦者は候補者と直接的な利害関係となる事実はありません。

推薦者：

\_\_\_\_\_

## 第 37 回公益財団法人蓬庵社研究助成発表会

日 時: 平成 30 年 7 月 25 日(水)13 時 00 分から 17 時 25 分

場 所: 塩野義製薬株式会社 医薬研究センター オーデトリウム  
(大阪府豊中市二葉町 3 丁目 1 番 1 号)

13:00-13:05 ご挨拶 公益財団法人蓬庵社 理事長 武田 禮二

演題および演者 (講演 25 分、討論 10 分)

座 長

13:05-13:40 1. 抗多剤耐性結核菌活性を有する caprazamycin 類の合成研究

竹本 佳司 先生  
(京都大学大学院薬学研究科)

村橋 俊一 先生

13:40-14:15 2. 血管リモデリング形成における低酸素誘導因子の機能解析

富田 修平 先生  
(大阪市立大学大学院医学研究科分子病態薬理学分野)

岩尾 洋 先生

14:15-14:50 3. 蛍光プローブの論理的精密設計に基づく、  
細胞生命現象・in vivo 微小がんイメージングの実現浦野 泰照 先生  
(東京大学大学院薬学系研究科 薬品代謝化学教室)

廣部 雅昭 先生

14:50-15:25 4. 有機カチオン膜輸送体の臓器疾患と薬物治療に及ぼす役割

加藤 将夫 先生  
(金沢大学医薬保健研究域 (薬学系))(故) 辻 彰先生  
代 理  
寺崎 哲也 先生

15:25-15:40

休 憩

15:40-16:15 5. 希少糖 (レアシュガー) の消化管吸収機構と小腸機能回復に与える影響

鈴木 拓史 先生  
(山形大学 学術研究院 地域教育文化学部)

伊勢村 護 先生

16:15-16:50 6. 《特別研究助成》

F CMD の中枢神経症状に対する治療法の開発

池田 真理子 先生  
(藤田保健衛生大学病院 遺伝カウンセリング室)塩野義製薬(株)  
伊藤 久則 氏

16:50-17:25 7. 《特別研究助成》

ラミン A/C 遺伝子関連心筋症におけるヒト iPS 細胞・  
ラットモデルを用いた病態解明・治療法開発牧山 武 先生  
(京都大学大学院医学研究科循環器内科学)塩野義製薬(株)  
高橋 浩治 氏

以 上

前記のとおりご報告いたします。

令和元年6月

公益財団法人 篷 庵 社

理事長 武 田 禮 二

## 附属明細書

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年 6 月

公益財団法人 篠庵社